



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年2月13日

上場取引所 東

上場会社名 ケンコーマヨネーズ株式会社

コード番号 2915 URL <https://www.kenkomayo.co.jp>

代表者（役職名） 代表取締役社長 （氏名） 島本 国一

問合せ先責任者（役職名） 取締役 副社長 （氏名） 寺島 洋一

TEL 03-5941-7682

配当支払開始予定日 ー

決算補足説明資料作成の有無：無

決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年12月31日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	70,262	△0.4	3,564	△22.4	3,674	△21.8	2,396	△26.1
2025年3月期第3四半期	70,537	5.1	4,590	97.3	4,698	93.6	3,244	96.5

（注）包括利益 2026年3月期第3四半期 2,562百万円（△29.2%） 2025年3月期第3四半期 3,619百万円（74.2%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	161.78	ー
2025年3月期第3四半期	203.00	ー

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	69,196	40,827	59.0
2025年3月期	64,080	39,963	62.4

（参考）自己資本 2026年3月期第3四半期 40,827百万円 2025年3月期 39,963百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	ー	19.00	ー	24.00	43.00
2026年3月期	ー	23.00	ー		
2026年3月期(予想)				44.00	67.00

（注）1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

2. 配当予想の修正については、本日（2026年2月13日）公表いたしました「期末配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」をご覧ください。

### 3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	92,800	1.2	3,800	△21.6	3,950	△21.0	2,470	△29.5	165.32

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

新規 一社、 除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年3月期3Q	16,476,000株	2025年3月期	16,476,000株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	2,078,265株	2025年3月期	1,553,922株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2026年3月期3Q	14,811,776株	2025年3月期3Q	15,982,859株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：有(任意)

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、上記予想に関する事項は、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法)

当社は、2026年2月26日(木)に機関投資家及びアナリスト向けに決算説明会を開催する予定です。

この説明会で使用する資料は、開催日当日に当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11
(収益認識関係)	12

[公認会計士又は監査法人による期中レビュー報告書]

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間（2025年4月1日から2025年12月31日まで）における我が国の経済は、飲食や旅行などのインバウンド需要の好調さの継続や個人消費の持ち直しにより緩やかに回復しておりますが、外国為替市場における円安傾向の継続や米国の通商政策等により、依然として不透明感が残る状況が続いております。

このような事業環境のなか、当社グループは理念体系の再構築、重要課題を見直し、マテリアリティを特定し、これからも社会に必要とされる存在価値の高い信頼される企業であり続けられるよう中長期経営計画『KENKO Vision 2035』をスタートさせ、今期で2年目を迎えます。

持続的な成長のための抜本的改革と企業価値の更なる向上を基本方針とし、経営基盤の強化とともに4つの基本戦略に取り組んでおります。

#### <企業理念（ミッション+パーパス）>

- ・守るべきもの 心身（こころ・からだ・いのち）と環境
- ・使命 食を通じて世の中に貢献する。

#### <ビジョン（目指すべきもの）>

『サラダ料理で世界一になる』

#### <基本戦略>

- ・成長戦略 : 既存事業の収益基盤強化、ブランド構築の実行  
事業ポートフォリオを再構築し、事業環境の変化に適応
- ・スマート化 : DXを通じた企業改革と生産性の向上を図る  
合理化、効率化、成長するための事業拠点の再編
- ・人材投資 : グローバル企業化、働き方改革としてのダイバーシティを推進  
人材育成の強化、キャリアプランが実現できる施策の検討
- ・サステナビリティと社会的責任  
: 環境問題への取組みと地域社会への貢献活動を推進  
グループ従業員の健康と働きがいに注力した健康経営を目指す

#### <マテリアリティ>

- ・地球環境への配慮
- ・食の安全・安心・安定の追求
- ・ガバナンスの強化
- ・人権と多様性を尊重した人材育成
- ・ライフスタイルの変化への貢献

当第3四半期連結累計期間における売上高及び利益の概況は以下のとおりであります。

(売上高)

売上高につきましては、マヨネーズ・ドレッシング類は伸長しましたが、総菜関連事業等におけるフレッシュサラダの減少により、前年同期比で減収となりました。

(利益)

利益につきましては、売上高の減少による影響に加え、原材料費、人件費、物流費などの上昇分に対する価格改定のタイミングのずれや、鶏卵相場の高止まりにより原材料費が増加し、前年同期比で減益となりました。

当第3四半期連結累計期間の経営成績は、連結売上高は70,262百万円（前年同四半期比274百万円の減少、0.4%減）、連結営業利益は3,564百万円（前年同四半期比1,026百万円の減少、22.4%減）、連結経常利益は3,674百万円（前年同四半期比1,024百万円の減少、21.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,396百万円（前年同四半期比848百万円の減少、26.1%減）となりました。

当第3四半期連結累計期間における各報告セグメントの状況は以下のとおりであります。

(調味料・加工食品事業)

サラダ・総菜類につきましては、外食、量販、CVS向けに1kg形態と小型形態のポテトサラダが伸長しましたが、パスタサラダやフィリング等の減少により、わずかに減収となりました。

タマゴ加工品につきましては、たまごサラダやゆでたまご、錦糸たまごは好調でしたが、昨年度からのメニュー変更によりスクランブルエッグが減少したことにより、減収となりました。

マヨネーズ・ドレッシング類につきましては、10kgや1kg形態のマヨネーズが製パンや外食向けに増加し、またソース類も外食やCVS向けに増加したことから、増収となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は55,887百万円（前年同四半期比372百万円の増加、0.7%増）、セグメント利益は2,686百万円（前年同四半期1,045百万円の減少、28.0%減）となりました。

(総菜関連事業等)

売上につきましては、商品カテゴリーの拡大や高付加価値商品の開発など拡販に努めましたが、販売先における一部内製化等により減収となりました。利益につきましては価格改定の効果等により増益となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は13,802百万円（前年同四半期比557百万円の減少、3.9%減）、セグメント利益は845百万円（前年同四半期比81百万円の増加、10.7%増）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、69,196百万円（前連結会計年度比5,116百万円の増加、8.0%増）となりました。これは主に売掛金が3,904百万円、建設仮勘定が926百万円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、28,368百万円（前連結会計年度比4,251百万円の増加、17.6%増）となりました。これは主に買掛金が4,806百万円増加した一方で、未払法人税等が906百万円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、40,827百万円（前連結会計年度比864百万円の増加、2.2%増）となりました。

(自己資本比率)

当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は、59.0%（前連結会計年度比3.4ポイント減）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年11月14日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	15,729	15,658
受取手形	54	76
売掛金	14,255	18,160
商品及び製品	2,533	3,093
仕掛品	10	10
原材料及び貯蔵品	1,345	2,253
その他	383	424
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	34,312	39,676
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,498	8,917
機械装置及び運搬具(純額)	5,118	4,234
土地	6,021	6,004
建設仮勘定	17	944
その他(純額)	212	219
有形固定資産合計	20,868	20,319
無形固定資産	1,445	1,255
投資その他の資産		
投資有価証券	5,631	5,915
繰延税金資産	80	80
その他	1,771	1,978
貸倒引当金	△29	△30
投資その他の資産合計	7,453	7,944
固定資産合計	29,767	29,519
資産合計	64,080	69,196

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	10,622	15,429
電子記録債務	909	902
1年内返済予定の長期借入金	522	522
未払法人税等	1,212	305
その他の引当金	510	212
資産除去債務	171	171
その他	4,442	5,496
流動負債合計	18,391	23,040
固定負債		
長期借入金	3,293	2,902
退職給付に係る負債	424	493
その他	2,008	1,931
固定負債合計	5,725	5,328
負債合計	24,116	28,368
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,424	5,424
資本剰余金	5,699	5,700
利益剰余金	29,944	31,642
自己株式	△2,755	△3,757
株主資本合計	38,312	39,010
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,574	1,779
為替換算調整勘定	65	29
退職給付に係る調整累計額	11	8
その他の包括利益累計額合計	1,651	1,817
純資産合計	39,963	40,827
負債純資産合計	64,080	69,196

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	70,537	70,262
売上原価	54,254	54,286
売上総利益	16,283	15,976
販売費及び一般管理費	11,692	12,412
営業利益	4,590	3,564
営業外収益		
持分法による投資利益	35	59
受取利息及び配当金	33	33
その他	104	88
営業外収益合計	173	181
営業外費用		
支払利息	33	30
その他	31	41
営業外費用合計	64	71
経常利益	4,698	3,674
特別利益		
補助金収入	34	33
その他	1	3
特別利益合計	36	36
特別損失		
減損損失	—	184
固定資産除却損	3	0
割増退職金	—	32
その他	4	9
特別損失合計	8	226
税金等調整前四半期純利益	4,727	3,484
法人税等	1,483	1,088
四半期純利益	3,244	2,396
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,244	2,396

## (四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	3,244	2,396
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	369	205
退職給付に係る調整額	△7	△3
持分法適用会社に対する持分相当額	12	△36
その他の包括利益合計	374	166
四半期包括利益	3,619	2,562
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,619	2,562

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

当社の四半期連結財務諸表は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

連結子会社における税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益又は税引前当期純損失に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	55,514	14,359	69,874	662	70,537	—	70,537
セグメント間の 内部売上高又は振替高	690	5,418	6,109	—	6,109	△6,109	—
計	56,205	19,778	75,983	662	76,646	△6,109	70,537
セグメント利益	3,732	764	4,496	8	4,504	86	4,590

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額86百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	55,887	13,802	69,690	572	70,262	—	70,262
セグメント間の 内部売上高又は振替高	719	5,647	6,366	—	6,366	△6,366	—
計	56,607	19,449	76,057	572	76,629	△6,366	70,262
セグメント利益	2,686	845	3,531	△24	3,507	57	3,564

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額57百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「総菜関連事業等」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3連結累計期間においては184百万円であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2025年7月22日開催の取締役会決議に基づき、譲渡制限付株式報酬として自己株式 18,657株の処分を行いました。また、2025年11月14日開催の取締役会決議に基づき、自己株式 543,000株の買付けを行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が1,001百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が3,757百万円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	1,759百万円	2,020百万円

## (収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社グループの売上高は、顧客との契約から生じる収益であり、当社グループの報告セグメントを財又はサービスの種類別に分解した場合の内訳は、以下のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計		
サラダ・総菜類	16,269	—	16,269	—	16,269
タマゴ加工品	16,780	—	16,780	—	16,780
マヨネーズ・ドレッシング類	21,066	—	21,066	—	21,066
フレッシュサラダ・和惣菜等	—	14,359	14,359	—	14,359
その他	1,398	—	1,398	662	2,061
外部顧客への売上高	55,514	14,359	69,874	662	70,537

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業の売上高を表していません。

当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計		
サラダ・総菜類	16,266	—	16,266	—	16,266
タマゴ加工品	16,743	—	16,743	—	16,743
マヨネーズ・ドレッシング類	21,468	—	21,468	—	21,468
フレッシュサラダ・和惣菜等	—	13,802	13,802	—	13,802
その他	1,409	—	1,409	572	1,981
外部顧客への売上高	55,887	13,802	69,690	572	70,262

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業の売上高を表していません。

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2026年2月13日

ケンコーマヨネーズ株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石 井 伸 幸指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 和 久 友 子

## 監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられているケンコーマヨネーズ株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2025年10月1日から2025年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2025年4月1日から2025年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

## 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。

2. XBRL データ及び HTML データは期中レビューの対象には含まれていません。